

学校の概要		学校名	茅野市	立北山小	学校	学校長	小口 かおり	児童生徒数	128 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		北山小コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・北山地区コミュニティセンター所長 ・主任児童委員、民生児童委員 ・地域ボランティア代表 ・地区子ども館運営委員長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター				1 人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	
		0 人							
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月10日、6月24日、11月28日、2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		純朴にして たくましい子ども ～北山を愛し、北山に誇りを持つ子どもの育成～							
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域と共に成長し、地域を愛することができる素直で豊かな心を持つ。 人に学ぶ・地域に学ぶ・自然に学ぶ ふるさと「北山」に学ぶ。 どんなことにも前向きに粘り強く取り組む。							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 32 人 参加者延べ人数 150 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5					
地域学校協働活動の概要									
登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
清掃		○		ICT		○		学習ボランティア	
土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
人権教育		○		国際理解		○		託児	
給食		○		クラブ、部活動		○		総合的な学習の時間支援	
休み時間		○		給食		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
放課後教科・体験学習		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山	
キャリア教育(職場体験を含む)		○							
学校・家庭・地域の協働した取組例								春の遠足・学有林作業(5. 2)	
								伝統野菜「糸萱かぼちゃ」の種まき(5. 17)	
								地域の人から学ぶクラブ活動(11. 4)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>地域の伝統野菜である「糸萱かぼちゃ」の栽培に挑戦した。地域の「糸萱かぼちゃ保存会」の皆様から長野県諏訪農業農村支援センターを通じて取り組みへのお誘いがあり、4年生が取り組むことになった。栽培場所については、「湯川ひまわり会」という地域の農業団体に相談したところ、会員の方の畑を快く貸していただけることになった。児童たちは、各団体の皆様からの支援を受けながら土作りから始まり、畝づくり、種まきなど必要な作業を全て体験しながら、無事に収穫することができた。</p> <p>児童たちは地域の皆様にたくさんの質問をしたり、話を聞いたりしながら活動に取り組むことができ、地域の自然環境や自然に関わる人々の姿、地域で大切にしている伝統を理解し、大切にしていきたいという願いを持つことができた。</p> <p>単年度の活動として終わらせてしまうのではなく、来年度以降も4学年の取り組み(総合的な学習の時間)として位置づけて、地域を知る・学ぶ活動の一環として取り組んでいく。</p>									
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)									
学校と協働していただいている地域の皆様の高齢化が進んできていて、今後学校と関わっていただける皆様の人材確保が課題となっています。保護者世代の皆様にも協働として関わっていただいているものの、仕事の都合上、会議の開催や協働が難しい時があります。									